

令和 7（2025）年度 病害虫発生予察注意報 第 2 号

令和 7（2025）年 7 月 8 日
栃木県農業総合研究センター

作物名 水稻

病害虫名 イネカメムシ

1 発生予想 発生量 多い

2 発生地域 県南部

3 注意報発表の根拠

- (1) 県内の乾式予察灯 4 基（大田原市、宇都宮市、栃木市、小山市）のうち、県南部の小山市においては、6 月下旬から誘殺数が増加し、7 月第 1 半月には 15 頭と急激に増加した（図 1）。
- (2) イネカメムシが多発した令和 6（2024）年と比較して、急増する時期が約 2 か月早い（図 1）。
- (3) 県南部の複数の水稻ほ場で、昨年まで確認されなかった出穂前からのほ場への侵入が確認された。
- (4) 気象庁の 1 か月予報（7 月 3 日発表）によると、向こう 1 か月の平均気温は高く、降水量も平年並か少ない見込みであるため、本種の活動がより活発化したり、第 1 世代以降の発育が早まるおそれがある。

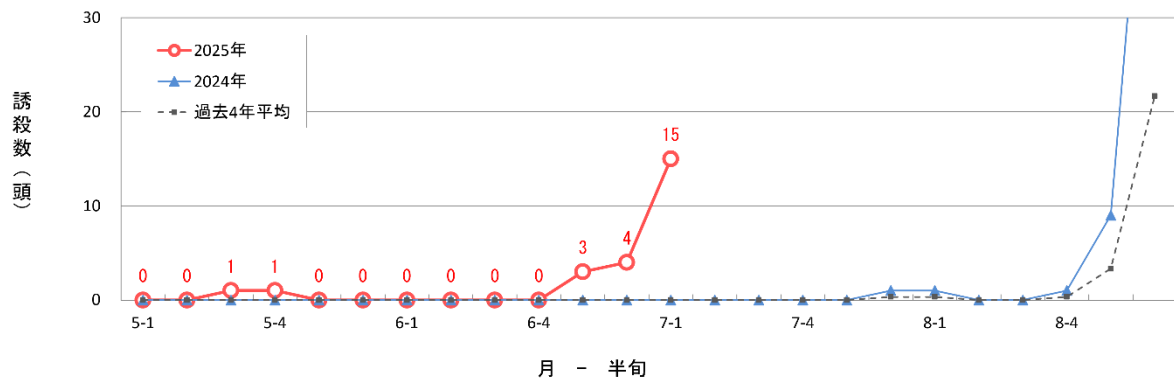


図 1 乾式予察灯におけるイネカメムシの誘殺状況（小山市）

4 防除対策

- (1) 水稻の生育診断速報によると、早植コシヒカリの出穂期は 7 月 22～31 日であり、平年より早まる見込みであるため、適切な時期に防除する。
- (2) 本種による加害は、出穂期～開花期頃にかけて集中しやすく、著しい不稔を引き起こすことで大幅な減収につながる。そのため、出穂期（不稔対策）及び出穂期の 7～10 日後（斑点米対策）の 2 回、薬剤による防除を実施する（表 1）。なお、発生が多い場合には、2 回目の防除から 7～10 日後に追加防除する。
- (3) 周辺より出穂が早い、または遅い品種・作型では、被害が集中しやすいため防除を徹底する。
- (4) 本種はイネの出穂後に穎花及び籾の基部を激しく加害するため、株当たりの寄生頭数が少ない場合でも大きな被害につながる可能性がある。そのため、早期の発見と適切な防除が極めて重要である。

表 1 水稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤（令和 7（2025）年 6 月 30 日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	IRAC コード
スミチオン乳剤	1000倍	収穫21日前まで	2回以内	MEP	有機リン系	1B
キラップフロアブル	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール	フェニルピラゾール	2B
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス	ピレスロイド	3A
スタークル液剤10	1000倍	収穫 7 日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A
エクシードフロアブル	2000倍	収穫 7 日前まで	3回以内	スルホキサフロル	スルホキシイミン	4C

注 1 IRAC コードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

注 2 詳細は、「[栃木県農作物等病虫害雑草防除指針](#)」を参照。

5 蜜蜂被害軽減対策

- （1）斑点米カメムシ類に対する薬剤防除は、水田周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、地域の養蜂家に薬剤防除日を事前に周知する等の積極的な対応を行う。
- （2）ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前 8 時～12 時）を避け、可能な限り早朝又は夕方に農薬散布を行う。
- （3）詳細は、「[蜜蜂被害軽減対策の推進について（農林水産省）](#)」を参照。



写真1 イネカメムシ成虫

（左 稲穂上の成虫 真中 セイバンモロコシ上 右 メヒシバ上）



写真2 イネカメムシ幼虫

（左 稲穂上 右 メヒシバ上）



写真3 基部斑点米

詳細は、栃木県農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課
（Tel 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせは「[栃木県農政部 X](#)」、

「[農業総合研究センターホームページ](#)」でご覧いただけます。

また、「[カメムシ防除作戦ホームページ](#)」、「[栃木県農業防災 LINE](#)」

でも情報を発信しています。



【センターHP】